

## 令和4年度事業概況報告書

自 令和4年4月1日  
至 令和5年3月31日

令和4年度の日本の経済は、ウクライナ戦争などで原材料、エネルギーコストの上昇、サプライチェーンの混乱、また為替の大幅な変動など内需型ビジネスにとり大変厳しい状況でしたが、「アフターコロナ」でインバウンド需要も再開して社会経済活動は徐々に回復してきた。

3月度の内閣府月例経済報告においては「景気は、一部弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している」と要約されており、先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要があるとされている。

我が国政府はコロナウイルスで経済が停滞し内需が厳しい状況の中、農産物の輸出促進を進め、1兆4,148億円対前年比14%増となった。

一方、国内の酪農・乳業界はエネルギー価格、飼料価格の高騰などで酪農家は経営が大変厳しい状況になった。飲用乳の販売低迷から加工用生乳処理の増加でバター、脱脂粉乳在庫が増加したため、業界挙げて在庫削減に取り組んだ。

乳業界も昨年は生産、資材、流通コストの増加から、乳製品、牛乳価格の値上げを実施したが、家庭市場の牛乳、乳製品販売は巣ごもり消費の反動やインフレでの買い控えなどで消費が低迷し、決算は大幅な減益となった。

そのような外的環境の変化の中で当協会においては、令和4年度から令和6年度までのロードマップと目標を策定した。初年度から4つの柱の計画達成に向けての活動を推進しました。特にネットワーキングの充実では一般社団法人日本乳業協会及び一般社団法人全国発酵乳酸菌飲料協会と連名で厚生労働省加藤大臣に「乳等の容器包装・原材料規格の改正」要望書を令和4年8月に提出した。当該要望に関しては厚生労働省食品基準課及び国立医薬品食品衛生研究所にて「用途別規格改正案」のワーキンググループが発足し、技術統括委員長も参画してポジティブリスト制度に則した告示370号を含めた大幅な規制緩和の改正案が検討されている。

新型コロナウイルス感染防止の観点から、定時社員総会は正会員議決権行使者だけで開催し、事業企画小委員会、技術統括委員会はオンライン会議との併用で実施した。

会員セミナーは秋季・会員セミナーでは「乳業市場の動向」をテーマに一般社団法人日本乳業協会本郷常務理事と「酪農乳業のSDGsの取り組み」に関して、一般社団法人Jミルク関次長からご講演を頂き、春季・会員セミナーは産業評論家進藤勇治様から「産業界の課題」として「カーボンニュートラルと企業の取り組み」また、株式会社明治エンジニアリング部長尾グループ長から「最新乳業工場」のご講演を頂き、会員企業へ乳業界の情報提供の充実を図った。

また、ロードマップの「社員教育への貢献」として若手社員研修会の充実を図り、技術統括委員会から「改正食品衛生法と協会自主基準」と乳機器部会から「牛乳製造設備の装置・機器、容器・充填機、衛生管理・微生物」を会場開催、懇話会も実施した。

本年度の主な活動内容は以下の通りです。

1. 令和4年5月23日第11回定時社員総会を議決権行使者だけで開催した。
2. 令和4年11月会員セミナー「乳業市場動向」一般社団法人日本乳業協会本郷秀毅常務理事、「酪農乳業のSDGsの取り組み」一般社団法人Jミルク関芳和次長の講演を開催した。
3. 令和5年3月会員セミナー「産業界の課題」産業評論家進藤勇治様と「最新乳業工場」株式会社明治エンジニアリング部長尾嘉公グループ長の講演を開催した。
4. 令和5年3月若手社員研修会を技術統括委員会及び乳機器部会講師で実施した。
5. 事業企画小委員会は財務基盤の強化と協会活動の活性化及び協会価値の向上に向け、会員セミナー、若手社員研修会を立案、実施した。
6. 技術統括委員会は、「乳等の容器包装の規格基準改正」につき、一般社団法人日本乳業協会及び一般社団法人全国発酵乳乳酸菌飲料協会と連名で加藤厚生労働大臣へ要望書を提出した。「用途別規格改正」に関する国立医薬品食品衛生研究所のワーキンググループに委員として参画した。
7. 乳機器部会は、一般社団法人全国発酵乳乳酸菌飲料協会のe-ラーニング研修の講師及び国立保健医療科学院食品衛生監視指導研修の講師を務めた。「異物混入対策」シートのアップデートを実施した。
8. 厚生労働省食品基準審査課、食品監視安全課には情報提供を行うとともに、当協会に関連する情報収集に努め必要な情報の協会会員へのタイムリーな提供を行った。
9. 当協会に関連する諸団体、一般社団法人日本乳業協会、一般社団法人全国発酵乳乳酸菌飲料協会、一般社団法人Jミルク、食品接触材料センターと情報交換して会員へ情報提供した。

このように当協会は、厚生労働省はじめ各方面のご協力と会員各位のご尽力により本年度もその歩みを進めることができました。今後も国民の健康と食の安全に資する取組みを主軸に活動を進めて参ります。

以上

## 附属明細書：事業活動の詳細

1. 第11回定時社員総会  
令和4年5月23日 乳業会館3階B&C会議室  
正会員36社議決権行使
  - (1) 採択事項：①令和4年度事業概要報告及び決算書の件  
②令和4年度～令和6年度ロードマップの件  
③理事選任の件  
報告事項：④令和4年度事業計画書及び予算の件  
⑤事業企画小委員会答申の件  
⑥技術統括委員会活動報告の件
  
2. 主な活動
  - (1) 技術統括委員会  
当協会の重要事項である器具及び容器包装の規格の更なる規制緩和のため、「乳等の容器包装・原材料規格の改正」に関して、一般社団法人日本乳業協会、一般社団法人全国発酵乳乳酸菌飲料協会と連携して厚生労働省加藤大臣に要望書を提出した。厚生労働省食品及び国立医薬品食品衛生研究所主導の「用途別規格改正」のワーキンググループに委員として参画した。
  - (2) 乳機器部会  
「異物混入対策」リストの更新し、ホームページに掲載した。  
国立保健医療科学院食品衛生監視指導研修で講師を務めた。  
一般社団法人全国発酵乳乳酸菌飲料協会「食品衛生」に関するe-ラーニングの講師を務めた。  
若手社員研修会で「牛乳容器・紙パック充填機・機器、装置・衛生管理・微生物の基礎知識」の講師を務めた。
  - (3) 事業企画小委員会  
当協会の令和4年度から令和6年度までの3カ年のロードマップと目標を策定した。ロードマップに基づいて令和4年度活動を推進した。協会価値向上に向け、新型コロナウイルス感染防止に努め、関連団体、乳業メーカー及び産業評論家の会員セミナーを企画、実施した。また「社員教育へ貢献」の活動として若手社員研修会の充実を図り、企画、実施した。
  
3. 官公庁・関係団体などとの取り組み
  - (1) 厚生労働省…「ポジティブリスト制度」に関する意見交換や関連情報の提供を実施して、「乳等の容器包装及び原材料規格の改正要望」に関しても意見交換、協議した。また、厚生労働省の業務委託を受けた国立医薬品食品衛生研究所の「用途別規格改正」ワーキンググループにも委員として意見交換を実施した。
  - (2) 関係団体等…一般社団法人日本乳業協会及び一般社団法人日本乳業協会とは「乳等の容器包装等の規格基準の改正要望」につき協議し、連名で加藤厚生労働大臣に要望書を提出した。一般社団法人全国発酵乳乳酸菌飲料協会の「食品衛生」に関するe-ラーニング講師につき、協議、開催した。また全国飲用牛乳公正取引協議会への協力(専門部会参加)し関係

団体とのネットワーキングの維持、活性化に努めた。

4. 広報事業の取り組み

会員に対する情報提供と非協会会員を含めた普及啓発事業の実施

(1) 会員セミナーの実施

秋季・会員セミナー「乳業市場動向と酪農乳業のSDGsの取り組み」

春季・会員セミナー「産業界の課題」「最新乳業工場」

(2) 協会だより

会員会社及び一般社団法人Jミルクの「SDGsの取り組み」情報提供をした。

5. 会員数

令和5年3月末現在	正会員	35社
	賛助会員	29及び3団体
	個人賛助会員	4名
	計	64社3団体及び4個人

6. 会議等の開催状況

(1) 通常総会	令和4年5月23日	1回
(2) 理事会		3回
(3) 事業企画小委員会		10回
(4) 技術統括委員会		6回
(5) 乳機器部会		3回
(6) 会員向けセミナー	令和4年11月、令和5年3月	2回

以上